



『 冬場の献血 』

輸血で助かる命があります。

輸血用血液製剤の使用状況を見ると、病気 83.5%、損傷・その他の外因 3.0%、妊娠分娩 0.6%、その他 12.9%となっています。病気などで輸血を必要としている人は年々増加し、一日平均約 3,000 人もの患者さんが、輸血を受けています。

現在、多くの方々に献血をしていただいているのですが、日本赤十字社の将来試算によると、輸血用血液製剤の必要供給数が最も高くなると予測される 2027 年には 85 万人分の献血が足りなくなる見込みとなっています。

少子化の影響が進み、献血者が減少傾向になっていくことは否めませんが、想像してみてください。輸血用の血液が足りず、あなたの大切な家族の助かるはずの命が助からなかった場合のことを・・・。

また、冬場になると献血に行く人が、極端に少なくなるようです。理由は、気温の低下により外出を敬遠したり、インフルエンザ・風邪などの疾病に罹患してしまい、薬を飲む機会が増え献血できなくなるからです。

輸血用血液製剤は、長期間保存することや人工的に造ることはできません。

ぜひ、冬場の健康管理に十分留意し、献血にご協力をお願いします。



鹿児島県厚生連
中央検査室(臨床検査技師)
田畑 歩一步